

「令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について

【富里市 小学校】

令和4年4月19日（火）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本市の小学校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「理科」「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/21chousa/21chousa.htm>

2 本市児童の調査結果

本市児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率 (以下全国平均) との比較)

国 語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
算 数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C
理 科	学習指導要領に示された目標及び内容に基づき、「A 物質・エネルギー」、「B 生命・地球」の二つの内容区分からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

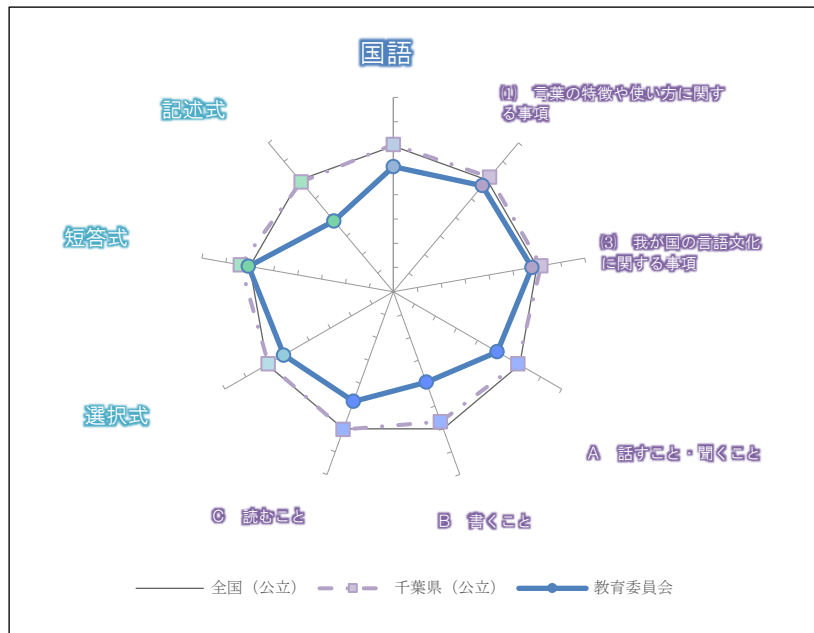
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



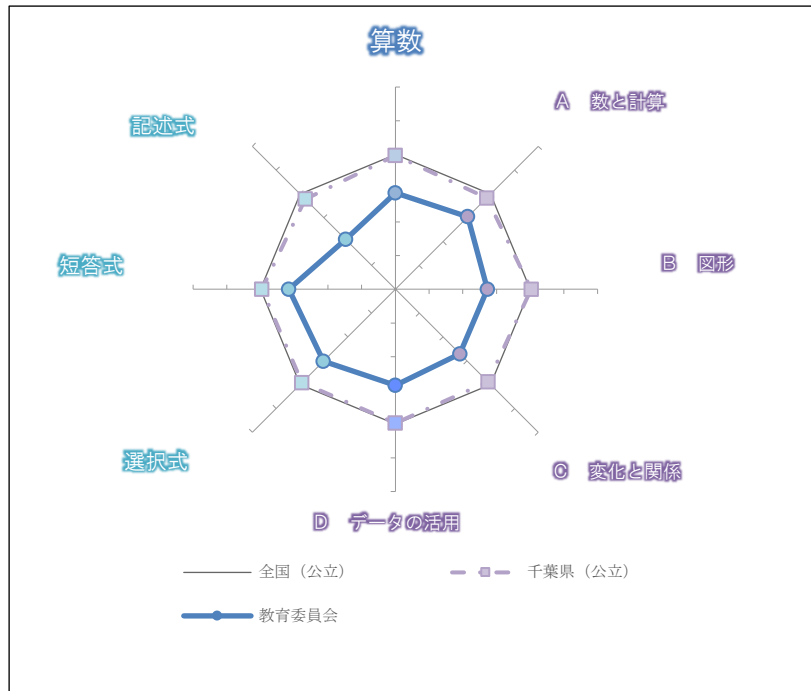
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 我が国の言語文化に関する事項について、概ね理解することができています。
- 話し言葉と書き言葉の違いについて、概ね理解することができています。
- 「記述式」の形式において、全国平均と比較して正答率が大きく下回っています。
特に無解答の割合が非常に高くなっています。
- 「話すこと・聞くこと」では、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることに課題があります。
- 「書くこと」では、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題があります。
- 「読むこと」では、人物像や物語の全体像を具体的に想像して読むことに課題があります。

【改善方策等】

- 「話すこと・聞くこと」の向上のため、話し合いの場面では異なる立場からの考えを聞き、様々な視点から検討した上で、自分の考えを広げたりまとめたりすることでできるような指導に努めてまいります。
- 「読む」力の向上のために引き続き読書活動を推進していきます。また、さまざまなジャンルの本を読むことも勧めていきます。
- 「書く」力の向上のために、自分の考えを理由とともに表現することができるように指導してまいります。

算 数



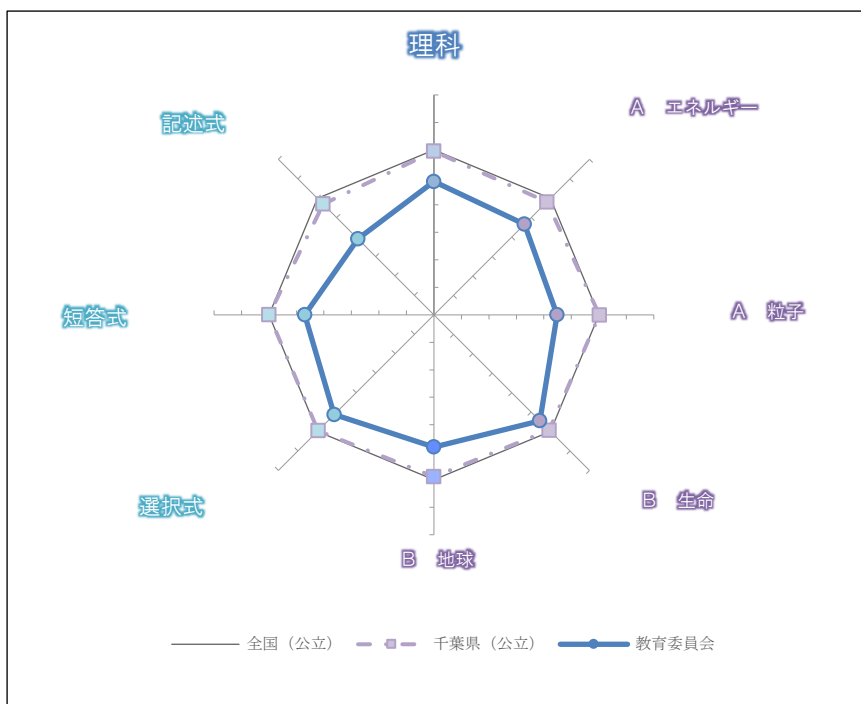
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 被乗数に空位のある整数の乗法の計算をする問題は概ねできています。
- 二つの数の最小公倍数を求める問題や百分率で表された割合を分数で表す問題は、全国平均とほぼ同じ正答率でした。
- 「記述式」の形式において、全国平均と比較して低くなっています。
特に無回答の割合が高くなっています。
- 数量が変わっても割合は変わらないことについての理解が不十分でした。
- 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方を式や言葉を使って説明する問題に課題があります。
- 回転の大きさとしての角の大きさに着目し、図形の構成の仕方についての理解に課題があります。

【改善方策等】

- 基礎・基本的な計算力が身に付くように、ドリル学習などを通して計算練習を続けていきます。
- 記述式の問題形式において、全国平均を下回っています。答えを導いたときは、「なぜそのように考えたのか」を文や図に表して説明し合ったり、友達と共に筋道立てて問題を解いたり学習を積極的に取り入れてまいります。
- 場面から数量の関係を図や表に表し、事象を整理してから立式できるように指導してまいります。
- 図形の学習では、図形の意味や性質を基に、辺の長さや角の大きさに着目し、図形の構成の仕方について考察できるように指導してまいります。

理 科



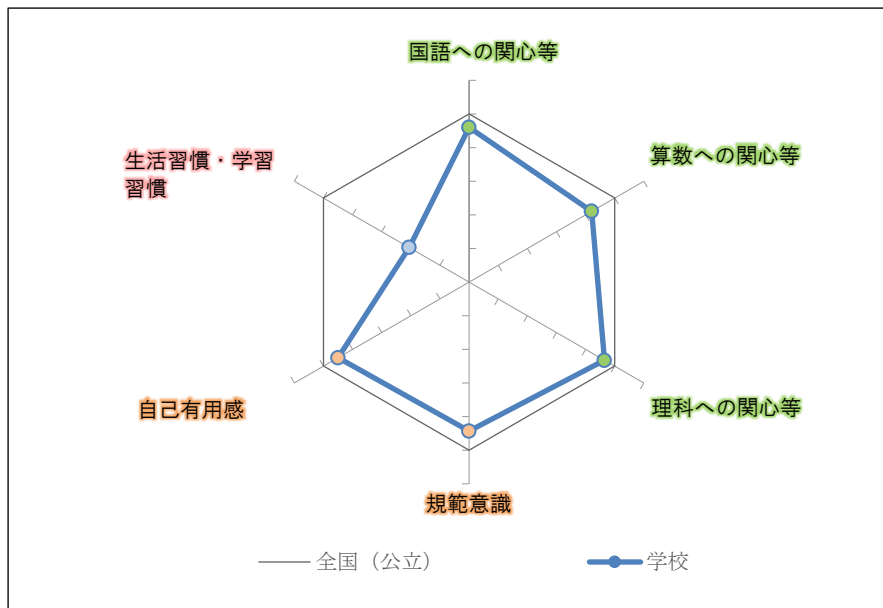
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 生命を柱とする領域について、全国平均に近い正答率でした。
- エネルギーを柱とする領域、粒子を柱とする領域、地球を柱とする領域について、全国平均よりも正答率が低くなりました。
- 問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができています。
- 自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点を分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を解釈することに課題があります。
- 実験で得た結果を、問題の視点を分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することに課題があります。

【改善方策等】

- 児童が既習の内容や生活経験を基にしなが、問題の解決を図るための根拠のある予想や仮説、それを確かめるための観察、実験の方法を考えることができるような授業を展開していきます。
- 児童が自らの予想や自然の事物・現象に基づいて、観察、実験などを行い、結果を整理し、その結果を基に結論を導き出すといった問題解決の過程の中で、問題解決の力の育成を目指していきます。

(3) 児童質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- ・人が困っているときは、進んで助けていると回答した児童の割合が全国平均よりも高い傾向があります。
- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人に相談できると回答した児童の割合が全国平均を上回っています。
- ・生活習慣・学習習慣に関する項目が総じて全国平均よりも低い傾向があります。
- ・土日における家庭学習の時間が県平均と比較して短い傾向があります。
- ・テレビゲームやスマートフォンなどでの SNS や動画視聴をしている時間が県平均よりも長い傾向があります。
- ・自分には、よいところがあると回答した児童の割合が県平均を下回っています。

3 まとめ

引き続き全体的に学力を向上させていく必要があります。

「とみの国」検定やドリル学習などを通して、漢字の読み書きなどの基礎学力が徐々に成果として出てきています。一方で、算数の基礎学力の定着には未だに課題がみられます。

今後は、日々の授業を大切にしていくことを前提として、百ます計算や視写などにも取り組むことで基礎学力の定着を目指していきます。

「記述式」の問題全般においては全国平均よりも正答率が大きく下回っています。「記述式」の問題を解決するためには基礎学力の定着が不可欠です。今後は、基礎学力を得た知識・技能を使って、目的に応じて文章を書く活動を充実させたり、授業の最後に「自分の言葉」でふり返りを書く時間を設けたりするなど、日々の授業の工夫・改善に努めてまいります。

各家庭におかれましては、規則正しい生活・学習習慣を身につけられるよう、引き続きご支援をお願いいたします。